

見通しを持ち、自ら学ぶ児童の育成

—総合的な学習における課題作りを通して—

糸満市立潮平小学校教諭 上原 康 秀

内容要約

問題解決的な学習の課題作りにおいて、児童の興味・関心を大切にしながら見通しを持った課題作りができれば、自ら学ぶ児童が育成されるのではないかと考え、学習課題に見通しを持たせることにした。

ワークシートを活用し、調べてみたい理由から調べる内容、調べる方法を順序立てて書かせ、グループごとに課題を練り合わせ、より見通しのある課題作りをさせた。児童は、調べる内容、調べる方法を練り合うことでより課題解決の方法が分かり自ら課題解決へと取り組んでいった。

【キーワード】見通しを持った課題調べる内容調べる方法

目 次

I	テーマ設定の理由	41
II	研究の仮説	41
III	全体構想図	42
IV	研究の内容	43
1	総合的な学習とは	43
(1)	総合的な学習の時間について	43
(2)	総合的な学習と生きる力	43
2	見通しを持つとは	44
3	自ら学ぶ児童とは	44
4	学習課題作り	44
(1)	調べるテーマづくり	45
(2)	見通しを持った課題とは	45
V	授業の実践	47
1	単元名	47
2	単元設定の理由	47
3	単元の指導目標	47
4	指導計画	47
5	本時の指導	48
6	授業の考察	49
VI	研究全体の考察	49
VII	研究の成果と今後の課題	50

見通しを持ち、自ら学ぶ児童の育成

－総合的な学習における課題作りを通して－

糸満市立潮平小学校教諭 上 原 康 秀

I テーマ設定の理由

国際化、情報化の進展、価値観の多様化等、激しく変化する社会を主体的に対応する力「生きる力」を育成することが求められている。新学習指導要領では、ゆとりの中で「生きる力」を育むことをねらいとしている。総合的な学習の時間においても「自から課題を見付け、自ら学び自ら考え、問題解決する資質や能力、学び方やものの考え方等を身につけること」としている。研究のテーマである「見通しを持ち、自ら学ぶ児童の育成」の自ら学ぶ児童とは、内発的な学習意欲から学習活動において主体的に取り組む児童のことをいう。児童が自ら学習活動に取り組むためには、学習活動を展開していく中で課題解決の見通しを持たせることである。そこで、課題解決に見通しを持たせるには、課題作りにおいて児童の興味・関心を大事にし身近な学習課題を設定させ、課題そのものに解決の見通しが分かる課題作りが必要になる。

これまで、自ら課題を見つけさせるため「ふれる・出会う」段階で興味・関心を持たせようと体験活動を取り入れてきた。体験後の感想をもとに「なぜかな」「どうしてかな」等の疑問に思ったことを書かせ、疑問に思った事の中から調べてみたいことの課題作りへと導いていった。児童は、教師の導きのままに体験し、感想や疑問から調べてみたいことを書き、課題追究へと移っていった。その結果、学習課題を設定できても、追究に行き詰まり、途中から課題を変更する人や資料を書き写すだけの調べ学習になってしまった。総合的な学習のねらいである「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え」に迫っていくことはできなかった。その原因として、児童自ら「課題設定ができたのか」「学習課題が追究できるものであったのか」「見通しを持った学習活動になっていたのか」等様々な要因が考えられる。そこで、課題作りにおいて児童自ら見通しを持って課題設定ができるように、ワークシートを活用し、同じ課題を持つ児童をひとまとまりのグループとし、学習課題を練り合わすことで見通しを持った課題づくりへと向けて行った。

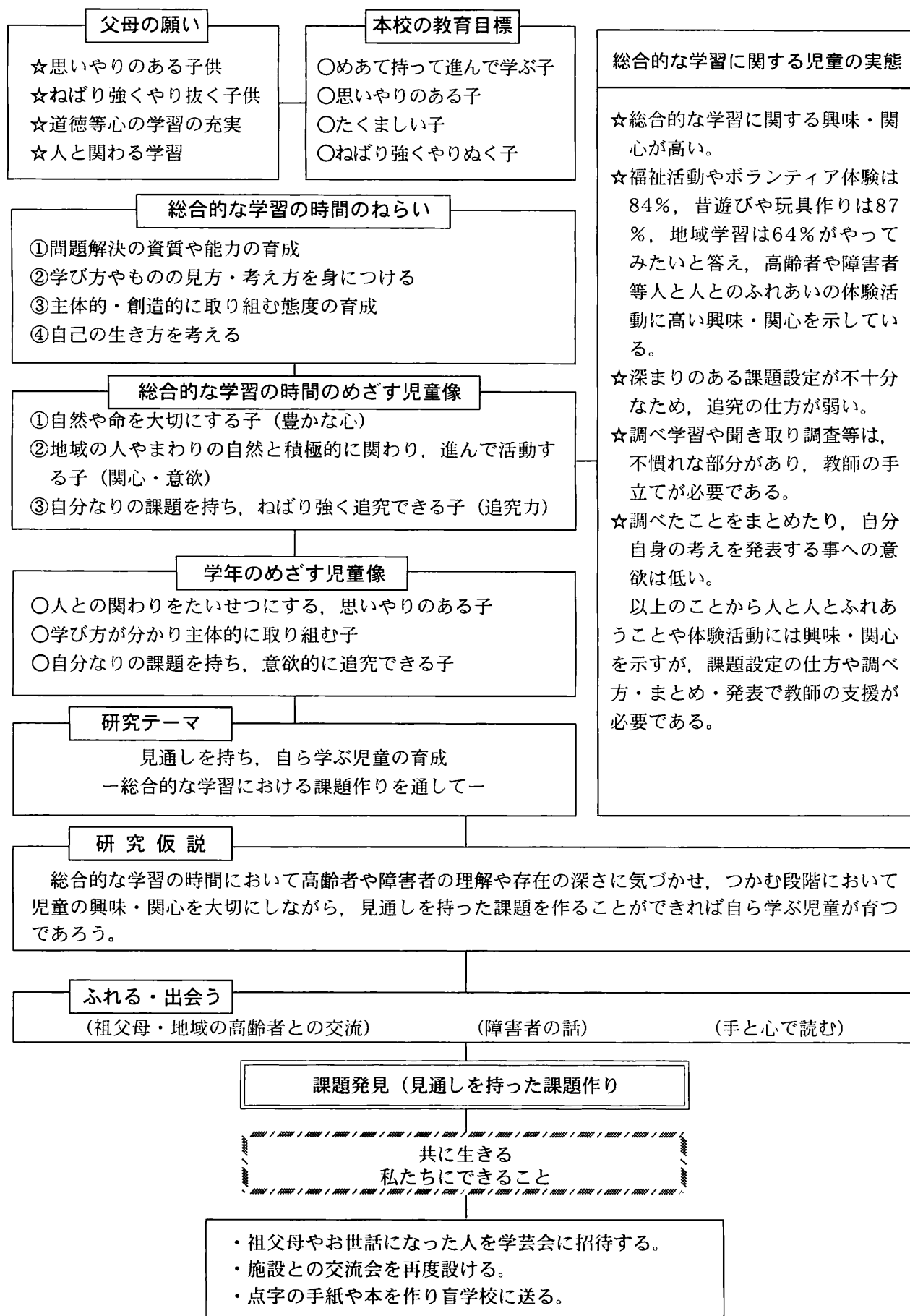
総合的な学習において福祉を取り上げることが、身近な存在である祖父母とふれあう機会を多く持つことによって、高齢者から豊かな体験や知恵を学ぶことができるからである。将来に目を向けると2025年には国民の4人に1人が65歳以上のお年寄りという超高齢社会を迎える。少子高齢化や核家族化は、避けて通れない身近な社会問題である。祖父母はいるけれど同居している児童は極めて少ないことから、児童が高齢者と接する機会が少なくなり人生経験豊かな高齢者の生き方や考えが理解されていない状況にある。そこで、身近な存在である自分の祖父母に目を向け、人生経験豊かな高齢者をよく理解することで存在の深さを気づかせた。さらに、地域の高齢者や障害者の関わりを通して、問題解決的な学習へと結びつけた。

このようなことから、身近な存在である祖父母や地域のお年寄りとの交流から高齢者を理解し存在の深さを気づかせ、問題解決的な学習において課題作りを工夫すれば見通しを持ち、自ら学ぶ児童が育成されるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

総合的な学習の時間において高齢者や障害者の理解や存在の深さに気づき、つかむ段階において児童の興味・関心を大事にしながら見通しを持つ課題が設定できれば、問題解決的な学習において自ら学ぶ児童が育成されるであろう。

Ⅲ 全体構想図



IV 研究内容

1 総合的な学習とは

(1) 総合的な学習の時間について

総合的な学習の時間のねらいの「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的によりよく解決する資質や能力を育てること」とは、自ら設定した課題を調べて分かった、今まで知らなかったことが調べることによって知ることができたの知識の習得を目的とするものではない。自ら設定した課題の解決に向け、どうすれば解決できるのかを自ら考え、情報を収集し、調べ方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方等を通して「学び方やものの考え方」を身につけるものである。

「学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること」とは、課題設定や課題追究・まとめや発表の過程を主体的・創造的に取り組み自己の生き方について考えることができるようにすることである。また、これまで知り得た知識や技能が生活の場において生かすことができる実践的な態度を育成することでもある。このような総合的な学習のねらいを達成するためには、体験活動を通して児童の興味・関心を大事にした学習活動を展開していく必要がある。

新学習指導要領は、学校の全教育活動の中で体験的な活動を取り入れていこうとしている。総合的な学習の時間においても「自然体験やボランティア活動等の社会体験、観察、実験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動等の体験的な学習、問題解決の学習を積極的に取り入れること」とあり、実生活の中で自ら課題をつかみ解決していく自己学習力、つまり、主体的に生きる力を身につけていくこととしている。体験して学ぶことは、本物と出会い、体全体を使って身の回りに働きかけ、自分なりの意味や価値、関わり方をつかみ取っていくものである。五感を働かせ、より実感的に、手応えを感じながら体に刻み込まれるような学びを体験できるからである。体験活動を通して本物や事実に触れ、興味・関心を持つことから自ら学ぶ児童が育成され生きる力へとつながる。

(2) 総合的な学習と生きる力

生きる力とは、激しく変化する社会において、直面する自らの課題や問題を、自ら考え、自立的な解決を図りながら社会生活を営む実践的な力を育てることとしている。このような生きる力を育ませるために、総合的な学習の時間では、問題解決の資質や能力の育成、学び方やものの考え方の育成、主体的・創造的な態度の育成、自己の生き方について考えることができることをねらいとしている。しかし、生きる力は、総合的な学習の時間だけで育成されるものではない。各教科等で培った知識や技能を相互に関連づけ、総合的な学習で生かし、総合的な学習で培った学び方やものの考え方を各教科等に相互に関連づけ、総合的に取り扱うことが重要である。

総合的な学習の時間と各教科等との関連づけのポイントをまとめると①総合的な学習の時間の前提には、各教科

総合的な学習の時間 学年の児童像		学 習 活 動	共 に 生 きて いく
国 語	学 習 活 動	・ 人の関わりを大切に 思いやりのある子 ・ 学び方が分かり、主体的に取り組む子 ・ 自分なりの課題を持ち 意欲的に取り組む子	・ 高齢者の元気について調べる ・ なぜ、ソフィアに来るのか。 方言について調べる。 ・ 昔遊びについて調べる。 ・ 高齢者が好きな食べ物について ・ 点字について調べる。 ・ 車椅子について調べたい。 ・ 体の不自由な人について調べる。
		・ 内容を中心に分かりやすいように工夫して 新聞や作文を書くことができる。 ・ メモを生かして記録文を意欲的に書くことが できる。 ・ インタビューの話し方について理解する。	・ 目が不自由であることはどういことである かを考える。 ・ 学習をもとに感想を書き、「目の不自由な人と 共にいける」ということについて話し合う。 ・ 疑似体験をして障害者の人の気持ちを考える
社 会	学 習 活 動	・ 学習課題を設定する。 ・ 必要な情報を収集する。 ・ 色々なまとめ方から効果的なまとめ方がわ かる。 ・ 工夫した発表の仕方が分かる	・ 友達と協力して情報を収集する。 ・ 友達と役割を分担してまとめ、発表する。
		・ 表やグラフ、資料等を読み書き表す。	
音 楽	学 習 活 動	・ 楽器の色々な演奏法を探したり、音の違い を聴き取ったりして音楽を楽しむ。	・ 色々な楽器の音に合わせるようにする（合奏） ・ みんなで声を合わせて歌う（合唱）
		・ 祭りのにぎやかで力あふれる感じを踊って 楽しむ。郷土の踊りを覚えて楽しむ。	・ 祭りや郷土の踊りをリズムにみんなで協力し て合わせて踊る。
図 工	学 習 活 動	・ 創造的な表現力をつける。	
		・ 自分でやろうと決めたことは、ねばり強く やり遂げる。	・ 相手のことを思いやり、親切にする。 ・ 礼儀の大切さをしり、だれに対しても真心を もって接する。 ・ 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。 ・ 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感 謝の気持ちを持って接する。 ・ 約束や社会の決まりを守り、公德心をもつ。 ・ 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し 合って楽しい学校をつくる。
学 級 活 動	学 習 活 動	・ 安全に気を付ける。 ・ 日常生活の中で自分にできることを実践す る。 ・ みんなで意見を出し合って集会の計画・運 営ができるようにする。	・ 友達と協力して助け合う ・ エイズについて理解し、誤解や偏見・差別を なくし、共に生きていくことの大切さに気づ く。 ・ 思いやりのある正しい言葉遣いができる。

図1 総合的な学習に関連づけた各教科等の学習内容

等で学んだ知識や技能が存在する②各教科等で学んだ知識や技能を体験的な活動を通して生活と結びつけて生かす③総合的な学習の時間と各教科等の学習には相互に有機的な連携の三点を挙げることができる。

各教科等で身につけた知識や技能を関連付けて総合的な学習の時間に生かすとは、例えば、壁新聞を作る過程においては、国語で培われた「内容の中心が分かりやすいように工夫した新聞作り・5W1Hを押さえての新聞作り・メモの取り方」等、社会で培われた「調べ学習の仕方・まとめ方・発表の仕方」等、算数で培った「身の回りの変化する量をグラフに表す」等他の教科で、ばらばらで培ってきた知識や技能が総合化され活用されることになる。また、学習を通して各教科等で身に付けられた知識や技能が総合的な学習の時間で生かされることで一層深まり確かなものになる。さらに、総合的な学習の時間を通して育てられた問題解決力、創造性や主体性、学び方やものの考え方、生き方等が各教科等の学習の知識・技能の習得意欲へとつながっていくからである。図1は4年の総合的な学習の時間に関連づけた各教科等の学習内容である。

このように、各教科等で培った多くの知識や技能が総合的な学習の時間に生かされ、総合的な学習の時間で培った学び方やものの考え方、生き方が各教科等に生かされる学習活動を展開していくことが激しく変化する社会に対応する生きる力を育てることにつながる。

2 見通しを持つとは

児童の思いや願いを中心に据えて、総合的な学びを展開していこうとするとき、何のために（調べる目的）、何を（調べる内容）、どのように（調べる方法）追究するのかという学習計画作りの場が必要になってくる。これから追究していこうとする課題について調べる内容や方法を明らかにし、課題解決に見通しを持つものである。このように、課題解決に向け見通しを持たすことで自ら学ぶ児童の育成へとつながる。図2は、見通しを持った学習活動の流れである。

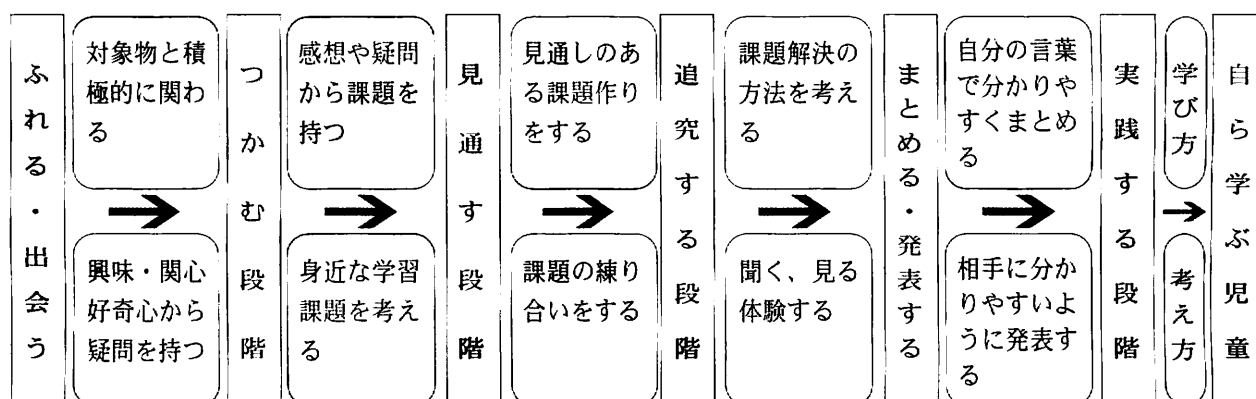


図2 学習活動の流れ

3 自ら学ぶ児童とは

自ら学ぶ児童とは、学ぶ段階において知識や技能を身につけることに喜びや達成感を感じ、心の内部からわき上がってくる内発的な学習意欲によって、主体的に学習活動に取り組む児童をいう。すなわち、ふれる・出会う段階では、自ら対象物と関わり、興味・関心を持ち、つかむ段階では、知りたいことや調べたいことから自分なりの課題を設定し、見通す段階においては、自ら設定した学習課題から見通しを持った課題を作り、解決に向け自分なりの見通しを持ち、調べてみたいことについての内容や方法をはっきりつかむ。さらに、追究する段階においては、課題解決に向かって自分なりの見通しを持ち追究していく。最後に、調べて分かったことをどのようにまとめたら相手に分かりやすく伝わるのか、自分なりの言葉でまとめて堂々と発表する。このような学習過程を通して、自分の考えや意見を持ち自分のよさや自信を持つことから自己を振り返り「自分にできることは何か」を考え実行できる児童をいう。

4 学習課題作り

学習課題作りにウェビング（webbing）という手法がよく利用される。このウェビングの手法を教師は、使う目的や使う場面を考えて行う必要がある。さらに、児童の個人ウェビングや全体ウェビングをする

(1) 調べるテーマづくり

ふれる・出会う段階で見たことや疑問に思ったこと、気づいたこと等を中心に調べてみたいことを関連づけて個人でウェビングをする。ワークシートに「高齢者との交流」「障害者の話」「手と心で読む」を中心に書き、見たこと、思ったこと感じたこと、疑問に思ったこと等をどんどん書き入れる。このときのウェビングは、できるだけたくさん書けるようにイメージを広げていくことが大事である。個人のウェビングができれば、教師を中心に学級全体で個人のウェビングをもとを発表させ、さらに広げていく。学級全体でウェビングをすることでテーマ作りの視野がより見えてくるからである。

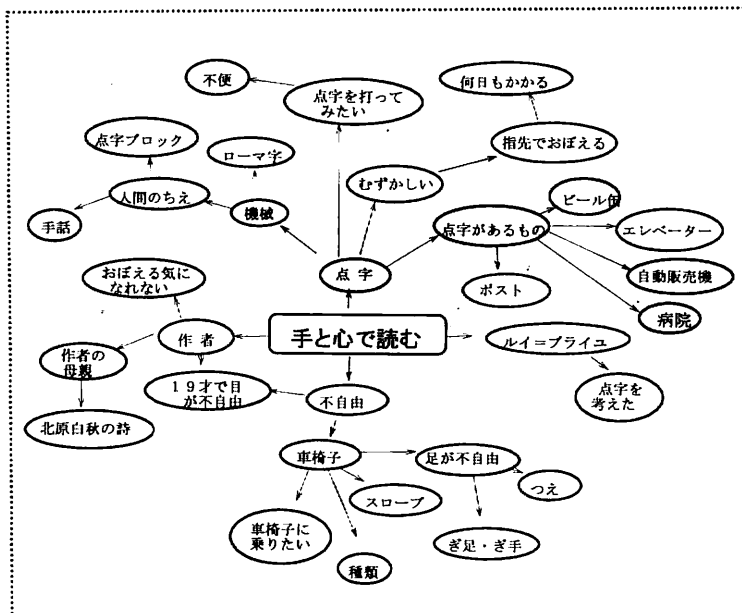


図3 全体ウェビング（手と心で読む）

学級全体のウェビングができた
ら、調べるテーマ作りをする。テ
ーマ作りには学級全体のウェビ
ングだけで決めるのではなく、ふ
れる出会う過程での児童の感想も考
慮する必要がある。ウェビングで
は書き表せなかった児童の思いや
願いが見えるからである。教師
は、学級全体のウェビングや児童
の感想をもとに、児童への発問を
繰り返しながら調べるテーマが身
近な学習課題につながっていくよ
うに内容を精選し調べるテーマを

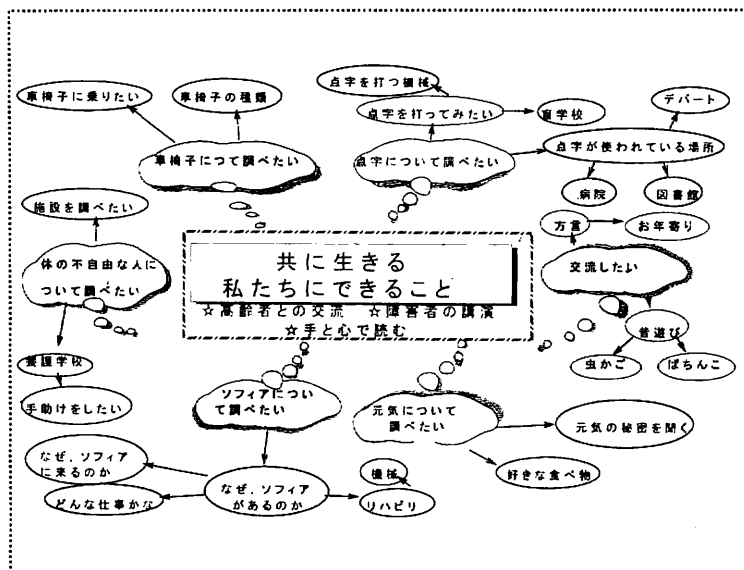


図4 調べるテーマを決める

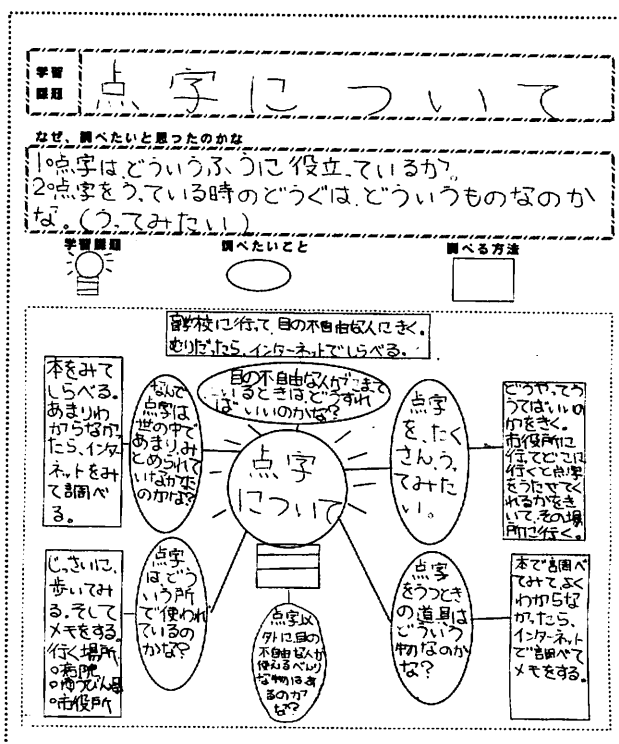
決める。学級で調べるテーマが決まったら、個人で調べてみたいテーマを決めさせグルーピングをする。

自ら学ぶ児童を育成するために、ふれる・出会うの体験活動で興味・関心を持たせた。自ら設定した課題を追究していくためには、課題作りにおいて児童の興味・関心、思いや願いを大切にしながら学習課題に見通しを持たせることである。見通しを持った課題とは、調べるテーマから調べたい理由や背景を基に「何を調べるのか」の調べる内容、「どのように調べるのか」の調べる方法が分かる学習課題を見通しを持った学習課題といえます。例えば、点字について調べるという学習課題から、その理由が「点字は、郵便局でよく見るけれど、他の場所にどのように使われているのか調べたい」と

あった。そのことから、調べる内容や方法に目を向けさせて見通しを持った課題作りをするために、郵便局ではどんな場所にどのようなことが書いてあったかに気づかせた。見通しを持った課題を「郵便局以外の場所では、どんな場所に、どのように使われているのかを調べる」とした方が、点字が使われている場所やどのように使われているのかを調べることができる。

① 見通しを持った課題作り（《個人ウエビング》図5）

見通しを持った課題を作るには、課題作りにおいて調べるテーマから調べたい理由を基に、調べる内容が分かり、内容をどのような方法で調べるのかを系統立てたワークシートを活用した。調べるテーマから、なぜ、調べようとしたかの理由を書かせる。理由を書くことで調べてみたい動機を明確にすることができる。この理由が見通しを持った学習課題作りの重要なポイントになる。なぜ、調べようとしたのか理由をはっきりさせることで、学習課題作りの内容が決まってくるからである。調べるテーマをワークシートの中心に書き、放射状に調べてみたい内容を書く。調べてみたい内容をどのような方法で解決できるのかを系統づけて書くことで学習課題の内容や方法が分かり、課題解決に見通しを立てることができる。



② 課題の練り合い（図6）

個人で立てた学習課題であっても必ずしも課題解決に見通しがあるものとは限らない。そこで、同じ課題のグループを編成し、互いの課題を練り合わせることで、より見通しを持った学習課題作りをさせた。グループで個人の調べるテーマから調べてみたい内容や方法を書いたワークシートを準備し、調べてみたい理由、調べる内容や方法を一人ずつ発表し検討する「なぜ、調べようと思ったのですか」「何を調べるのですか」「どのように調べるのですか」等の発問をさせ、個人の学習課題の調べる内容や方法をグループで意見を交わすことで、考えが多様化されより見通しを持った学習課題が設定できる。より見通しを持った課題を作ることができれば、児童は課題解決に向けて自ら学習活動を展開することができる。また、同じ課題をグループ内でお互いで追究することにより、深まりのある課題解決を図ることができる。

図5 見通しを持った課題作り（個人ウエビング）

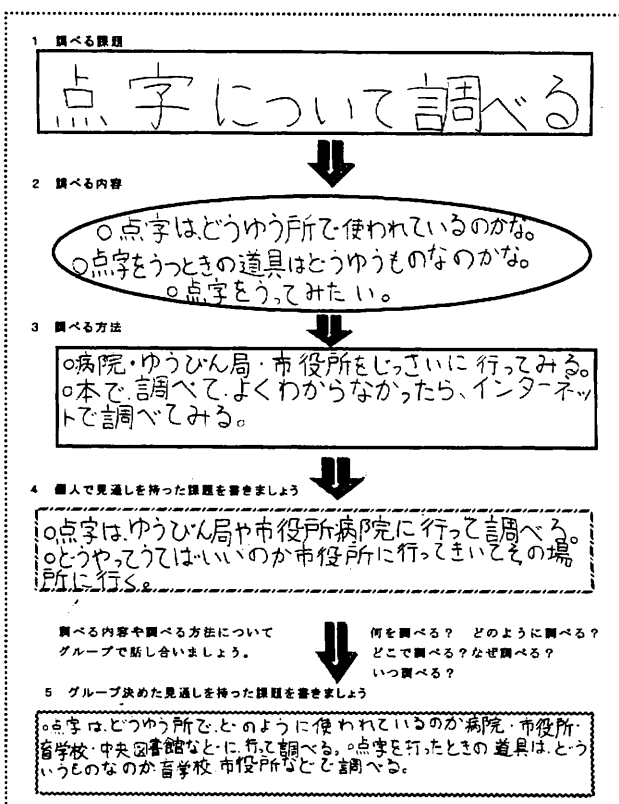


図6 課題の練り合い

V 授業実践

1 単元名 共に生きる！私たちにできること

2 単元設定理由

- (1) 教材観（省略）
- (2) 児童観（省略）
- (3) 指導観（省略）

3 単元の指導目標

- (1) 高齢者や障害者の気持ちや考え・生き方を理解することができる。
- (2) 見通しを持った課題作りができる。
- (3) 福祉活動を通して、自分にできることを考え実践することができる。

4 指導計画

学習のねらい

学習の活動・子供の反応・声

教師の支援

関連教科・事項

高齢者とふれあおう（5時間）

・祖父母をもっと知ろう。

・祖父母を尊重する心を養う。

・地域の高齢者との交を楽しむ。

◎自分の祖父母の聞き取り調査をする。

戦争を経験している。
竹細工で玩具をやがゴを作っていた。
重い荷物を頭に乗せ10kmも歩いた。
自分の家を自分で建てた。

◎「おじいさん・おばさん自慢大会」をする。

◎地域の高齢者と交流する。

どうして方言をつかうのかな。
みんな、とても元気だった。
家より、ホームがいい。なぜ。
なぜ、リハビリの機械があるのかな。
いろいろゲームをして遊びたい。

☆長年生きてきた高齢者の苦労や知恵を知ることができる質問をする。

☆調べたことを新聞に書き「おじいさん・おばさん自慢大会」で祖父母の「すごいな」「えらいなあ」と思うところを紹介する。

☆施設の高齢者の人数に合わせて児童の人数調整をする。
(2～3人編成)

☆ガムテープに大きく書いた自分名前を胸に貼る。

☆聞こえるように大きな声で話す。

☆質問事項を予め考えさせておく。

☆校歌を歌う。

障害者とのふれあい

・障害者の講演から（学行）
車椅子について

・「手と心で読む」（国語）
点字について
目が不自由であることはどういふことかを考える。

・「お元気ですかおばあちゃん」（道徳）
高齢者の人達に感謝の気持ちを持って接しよう。

・「つばさを下さい」（道徳）
相手のことを考えて親切にする
やさしい心を育てる。

学習課題を見つけよう（5時間）

・調べてみたいテーマを決める。

・学習課題を作ることができる。

◎交流会、障害者の講演、手と心で読むからウエビングをして、調べてみたい課題作りをする。

祖父母・地域の高齢者

元気について調べたい

元気の秘密を知りたい

方言について調べたい

方言が分からなかった

昔遊びについて調べたい

高齢者から昔遊びを習いたい

老人施設について調べたい

なぜ、ソフィアに高齢者が集まるのかな

高齢者が好きな食べ物について

どんな食べ物が好きなのかな

障害者の講演

手と心で読む

体の不自由な人について調べたい

体の不自由な人の役に立ちたい

車椅子について調べたい

車椅子はどんなことが不便なのかな

点字について調べたい

点字はどこで使われているのかな

☆例文を用いてウエビングの練習をする。

☆講演や交流後の体験をもとに個人でウエビングをする。

☆個人のウエビングをもとに全体でウエビングをし視野を広げる。

☆交流会の感想や全体のウエビングやから調べてみたいテーマを話し合いで決める。

☆テーマが児童の興味・関心があるものを中心に考える。

☆身近な学習課題が設定できるテーマにする。

☆テーマが決まったら調べてみたいテーマごとにグルーピングをする。

見通しを持った学習課題づくり（5時間）

・見通しを持った課題を作ることができる。

・見通しのある課題作りについて練り合うことができる。

◎見通しを持った課題づくりについて理解する。

なぜ、このテーマを調べたいのか
調べたい理由（動機）を書く
何を調べるのか
調べる内容を具体的に書く
どのように調べるのか
調べる方法や場所を具体的に書く

・見通しを持った課題作り
なぜ、調べてみたいのかの理由（動機）をもとに「何を」「どのように」調べるのか分かる学習課題を書く。

・グループごとに課題について練り合い見通しのある課題を発表する。

☆見通しを持った課題について例文を用いて説明する。

☆なぜ、このテーマを選択したのか理由を明確にする。

☆調べるテーマから調べてみたい内容や調べる方法をワークシートに書かせる。

☆学習テーマから調べる理由をもとに「テーマ」→「内容」→「方法」を系統を順序立てて書かせる。

☆テーマを中心に「何を調べるのか」「どのように調べるのか」が分かるワークシートを工夫する。

☆調べる理由や動機「何を調べるのか」「どのように調べるのか」が分かるように発表する。

☆課題作りでよいところを賞賛する。

☆インタビューや電話をかけるときの順序やマナー、資料の収集の仕方について理解させる。

☆訪問先には予め連絡する。

☆課題追究で校外に出るときは、引率できる父母、兄弟にお願いする。行き先やねらいを確認する。

☆祖父母や地域の高齢者に聞き取り調査をするグループは直接インタビューする。

☆昔遊びの道具は、準備可能な手作りできるものを話し合わせる。

☆個人で調べる方言のテーマを決める。

☆社協からゲストティチャーを招聘し車椅子の扱い方や介助法を教えてもらう。

☆市内に点字がある場所を考え調査する。

☆盲学校を訪問し、点字の打ち方を習う。

・伝え合う心（国語）
学習の目的を知りテーマを持つことができる。

・学級紹介（国語）
一人一人が考えを出し合い、それをもとに話し合うことができる。

・グループ新聞作り（国語）
5W1Hを押さえて、記事内容が分かる効果的な表現をすることができる。

学習課題を追究する（9時間）

・聞き取り調査の仕方が分かる。

・学習課題を追究することができる。

◎インタビューの仕方や電話のかけ方を理解する。

なぜ老人施設に集まるのかな
どんなことをしているのかな

元気の秘密を聞く

どんな食べ物が好きなのかな

昔遊びの道具作りをしたい

方言の聞き取り調査をしたい

車椅子の体験をしたい

体の不自由な人の手伝いをしたい

点字のある場所を調べる
点字を打ちたい

ソフィア

祖父母

社協

養護学校

盲学校

☆インタビューや電話をかけるときの順序やマナー、資料の収集の仕方について理解させる。

☆訪問先には予め連絡する。

☆課題追究で校外に出るときは、引率できる父母、兄弟にお願いする。行き先やねらいを確認する。

☆祖父母や地域の高齢者に聞き取り調査をするグループは直接インタビューする。

☆昔遊びの道具は、準備可能な手作りできるものを話し合わせる。

☆個人で調べる方言のテーマを決める。

☆社協からゲストティチャーを招聘し車椅子の扱い方や介助法を教えてもらう。

☆市内に点字がある場所を考え調査する。

☆盲学校を訪問し、点字の打ち方を習う。

・方言と共通語（国語）
方言と共通語の特徴と役割について理解し、言語についての関心を高める。

・電話で約束（国語）
話の要点や中心をメモを取りながら正確に聞き取ることができる。

学習のねらい		学習の活動・子供の反応・声	教師の支援	関連教科・事項
まとめる	発表する	課題をまとめる（４時間）・発表する（２時間） - 調べたことをまとめることができる。 - 発表会の練習をする。 - まとめたことを発表することができる。 ◎いろいろなまとめ方を理解する。 - グループのテーマ・課題・調べた場所を書く。 - レイアウトを考える。 - グループの役割を決め作業する。 - 絵や写真を効果的に使う。 ◎グループで発表する役割を決め練習する。 - 大きな声で発表する。 - 相手を見て発表する。 - 疑問に思ったことを質問する。 - 発表後の感想を言う。 - これからの活動も発表する。 一人ではさびしく、みんなと一緒にいたいからソフィアに来る。 S君のおじいさんはすごいと思った。もう一度昔の玩具を作りたい。 点字は、いろいろな事にあり、目の見えな人に役立っていることが分かった。	まとめる ☆壁新聞・紙芝居・クイズ・実演・劇化・写真等調べたことが効果的に相手に伝える事ができるような書まとめ方をグループで考えさせる。 ☆調べたことを整理して自分なりの言葉でまとめる。 ☆発表で使う道具や材料を準備する。 発表する ☆相手が分かりやすいように実際に作った実演できるようにする。 ☆発表する時の役割分担をする。 ☆調べるテーマ・調べる内容・調べる方法・調べてわかったこと・感想の順に発表させる。 ☆時間内で発表できるようにみんなで協力する。 ☆私たちにできることにつなげる。 ☆発表を聞いて始めて分かったところや疑問に思ったところ等質問し理解を深めるようにする。	(社会) - 資料を収集する力 - 資料を活用する力 - 工夫した発表の仕方 ・メモを生かして(国語) 書き留めたメモや資料を生かして記録文を意欲的に書くことができる。 ・グループ新聞作り(国語) 内容の中心が分かりやすいように新聞を作ることができる。 ・忘れられない日(図工) 忘れられない日を決め、絵に表すことができる。 ・折れ線グラフ(算数) 身の回りの変化する量を折れ線グラフに表す。 ・書きたいことを整理して(国語) 身の回りの事柄から書く材料を集め、中心のはっきりした文章を書くことができる。
		私たちにできることを考えて行動し報告する（８時間） - 自分のできることを考え実践することができる。 - 感謝の気持ちを伝える。 - 報告会をする。 ◎調べたことをもとに自分のできることを考え計画を立てる。 - ソフィアの高齢者と再度交流する。 - 方言であいさつをする - 調べたことを発表する - ソーラン節を踊る - 全員で合唱・合奏をする。 - お世話になった人を学芸会に案内する。 - 案内状を書く - 盲学校に点字のお礼や本を作る。 - 点字でお礼の手紙を書く - 点字本を作る - 感想を書く - 今まで関わってきた人達に喜んでもらったことや自信がついたこと等を書く。 - 交流後の感想やこれまで学習してきたことを作文に書く。	☆これまで関わってきた人達に何ができるのか中心に考える。 ☆感謝の気持ちが伝わるような交流をする。 ☆役割をを分担し協力して準備をする。 ☆高齢者や障害者に喜んでもらうことで自己に自信や誇りを持たせる。 ☆交流後の感想を書かせる。 ☆私たちにできることの報告会を持ち新たな活動への意欲付けにする。	・とび出すすてきなカード(図工) 学芸会への案内状を書く ・音のカーニバル(音楽) 楽器のいろいろな演奏法を探したり、聴き取ったりして音楽を楽しむ。 ・表現運動(体育) 郷土の民謡の踊り方を覚えて楽しむ。 ・作文(国語) 作文を書く。

5 本時の指導

- 単元名 共に生きる！私たちにできること
- 本時の目標
 - 見通しを持った課題を練り合うことができる。
 - 見通しを持った課題を作ることができる。
- 授業の仮説
適切な課題であるかどうか練り合うことができれば、見通しを持つ課題作りができるであろう。
- 授業の展開

	学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価
導入 五分	☆これまでの学習を想起させる。 ☆今日の学習内容の提示をする。 「見通しを持った学習課題を作る」	・「共に生きる！私たちにできること」めあてに体験したこと、調べたいことを確認する。 ・見通しを持った課題の定義付けをする。例を挙げて説明する。 ・課題から「何を調べようとしているのか」「どのように調べようとしているのか」を明確にすることを押さえる。	・めあてを持って習しようとしているか。 (関心・意欲・態度) - じんぶなノート
展 開 三 十 五 分	☆グループごとに見通しを持った課題作りをする。 ・グループ内で個人個人の見通しをもった課題の発表をする。 ・個人個人の見通しをもった課題に対して「何を調べる」「どのように調べる」等の質疑をする。 ☆グループで決めた見通しを持った課題を短冊に書いて発表する。 ・調べたい課題の理由や背景を発表する。 「何を調べるのか」「どのように調べるのか」 ☆質疑をする(例) 何のために車椅子に乗るのですか。 車椅子でどこを歩くのですか。 どこから車椅子を借りるのですか。	・前時で予め個人で調べたいテーマから調べてみたい理由や背景を基に「調べてみたい内容」「調べる方法」から見通しを持った課題の書いたワークシートを中心にグループごとに準備する。 ・グループ内で個人の見通しを持った課題について「なぜ調べたいのか」「何を調べるのか」「どのように調べるのか」を中心に発問させ、より見通しを持った課題の練り合いをさせる。 ・グループごとに調べたい理由や背景を基に見通しを持った課題を発表させる。 ・「なぜ行くのか」「何のために行くのか」「どうしていくのか」等「調べる内容」「調べる方法」を質問させ、課題がより明確になるように意識付けをする。 ・全グループに発表、質問をさせる。 ・見通しを持った課題作りでよい意見や考え、発問を取り上げ賞賛する。	・見通しを持った課題作りができたか。 (思考・判断) - じんぶなノート ・見通しを持った課題を練り合うことができたか。 (関心・意欲) - 振り返りカード ・見通しを持った課題を発表することができたか。 (意欲・態度) - 振り返りカード ・見通しを持った課題の発表を聞いて質問ができたか。 (思考・判断) - 振り返りカード
まとめ 五分	☆今日の学習を振り返る。 ・課題作りの感想を書く。 ☆次時の学習内容の確認をする。	・今日の学習を振り返り自己評価させ、次時への活動に活かせるようにする。	・今日の学習を振り返り次時に活かすことができたか。 (意欲・態度) - じんぶなノート

6 授業の考察

ワークシートに一人一人調べたい理由や背景を基に見通しを持った課題を書かせ、グループの中で練り合わせ、より見通しのある課題作りに取り組ませた。振り返りカードを見ると、グループの中で検討したことが分かる35.4%、だいたい分かるが38.7%、あまり分からないが16.1%、分からないが9.6%であった。全体として肯定が74.1%いたことから、ワークシートに「調べたい理由」「何を調べるのか」「どのように調べるのか」を個人個人に書かせ、適切な課題であるかどうかグループ内で検討させることにより、「調べる内容」「調べる方法」がより具体的に捉えることができたと考えられる。しかし、あまり分からない・分からないが約25.9%いることを考えると、児童は、見通しを持った課題の練り合いよりグループの中で誰の課題がいいのかの検討になってしまった。その原因として、練り合いの仕方が不慣れなことや学習課題の大小が練り合いを左右したと考えられる。

グループ名 (人数)	分かる	だいたい分かる	あまり分からない	分からない
ソフィア (5人)	1	3	1	0
元気を調べる (2人)	0	1	0	1
食べ物について (4人)	3	0	1	0
方言について (5人)	0	4	0	1
手助けをしたい (4人)	2	1	1	0
昔遊び (6人)	0	3	3	0
点字について (5人)	1	4	0	0
車椅子について (3人)	0	1	2	0
合 計 (34人)	7人	17人	8人	2人
百 分 率 (%)	35.4%	38.7%	16.1%	9.6%

VI 研究全体の考察

自ら学ぶ児童を育成しようと、ふれる・出会う段階で祖父母や地域の高齢者と関わりを持たせた。高齢者との交流を通して興味・関心を持たせ「なぜかな」「どうしてかな」の疑問から、調べてみたいテーマを決め、課題に見通しを持たせた学習活動を展開していった。

ふれる・出会う段階では、祖父母や地域の高齢者と楽しく交流できたと答えた児童が94%で「すごいなあ」「偉いなあ」と思った児童が91%となっている。また、交流を通して興味・関心を持った児童が81% (33人中27人) となっていて、高齢者と楽しく交流することから興味・関心を持ったことが分かる。

課題をつかむ段階では、高齢者との交流から児童の70%が「なぜかな」「どうしてかな」と疑問に思うことがあったと答えている。また、70%の児童が自ら学習課題を決めることができたと答えている。

調べてみたい学習課題から見通しを持った課題作りにおいては、自己の見通しを持った課題が「よく分かる」「だいたい分かる」を合わせると74%となっている。

課題を追究する段階 (表2) では、何を調べに行くのか分かる91%、どこで調べるのか分かる94%、調べたことが分かる82%と答え、学習課題の調べる内容や方法が分かり、調べたことが分かった

と答えている。このことから、ワークシートを工夫して調べるテーマから、調べる内容や方法を書かせ、グループで課題の練り合いをしたことの成果があった。課題追究では、祖父母やソフィアの高齢者にインタビューしたり、車椅子体験・アイマスク体験・手作り体験等各グループの課題解決に取り組んで行った。

まとめの段階 (表3) では、進んでまとめた、工夫してまとめた、協力してまとめたを合わせると73.5%が相手に分かりやすく工夫してまとめることができたと答えている。調べたことを相手に分かりやすいように紙芝居にして絵を大きく描いたり、虫かご作りの様子を写真を取り入れるグループもあった。

(よ：よく分かる だ：だいたい分かる あ：あまり分からない わ：分からない)

グループ名 (人数)	何を調べに行くのか				どこで調べるのか				調べたことが分かる			
	よ	だ	あ	わ	よ	だ	あ	わ	よ	だ	あ	わ
ソフィア (5人)	4	1	0	0	4	0	1	0	4	0	1	0
元気を調べる (2人)	1	1	0	0	2	0	0	0	0	1	1	0
食べ物について (4人)	3	0	1	0	4	0	0	0	4	0	0	0
方言について (5人)	4	1	0	0	3	2	0	0	4	0	1	0
手助けをしたい (4人)	2	1	1	0	3	1	0	0	1	2	1	0
昔遊び (6人)	2	3	1	0	2	3	1	0	1	3	2	0
点字について (5人)	4	1	0	0	3	2	0	0	3	2	0	0
車椅子について (3人)	1	2	0	0	1	2	0	0	2	1	0	0
合 計 (34人)	21	10	3	0	22	10	2	0	19	9	6	0
百 分 率 (%)	62	29	9	0	65	29	6	0	56	26	18	0

グループ名 (人数)	進んでまとめた				工夫してまとめた				協力してまとめた			
	よ	だ	あ	わ	よ	だ	あ	わ	よ	だ	あ	わ
ソフィア (5人)	2	3	0	0	1	4	0	0	1	3	1	0
元気を調べる (2人)	1	0	1	0	0	1	0	1	1	0	1	0
食べ物について (4人)	1	0	2	1	0	2	2	0	2	2	0	0
合 計 (34人)	11	13	9	1	8	14	10	2	14	15	5	0
百 分 率 (%)	32	38	26	3	23	41	29	6	41	44	15	0

発表の段階（表4）では、進んで発表した、分かりやすく発表した、協力して発表した、を合わせる72.5%が堂々と発表できたと答えている。昔遊びでは、ソテツの葉を準備し、実際に編んで見せたり、プーサー遊び（昔のじゃんけん）では、遊び方を説明し、学級全員でじゃんけん遊びを楽しんだ。

表4 グループ別発表集計表

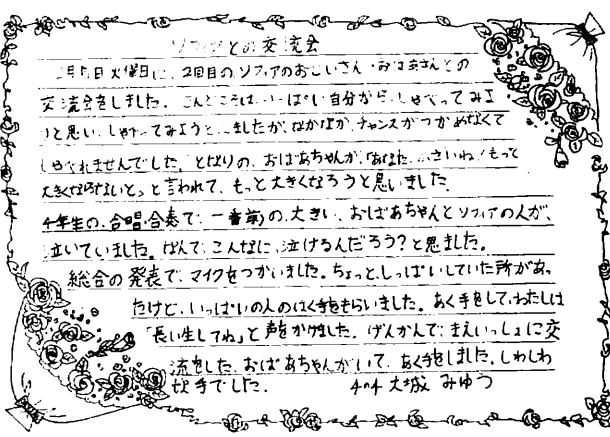
グループ名 (人数)	進んで発表した				分かりやすく発表した				協力して発表した			
	よ	だ	あ	わ	よ	だ	あ	わ	よ	だ	あ	わ
ソフィア (5人)	3	1	1	0	1	3	1	0	2	3	0	0
元気について (2人)	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	1	0
食べ物について (4人)	1	0	1	2	1	1	1	1	4	0	0	1
合 計 (34人)	9	14	7	4	8	15	7	4	13	15	5	1
百 分 率 (%)	26	41	21	12	23	44	21	12	38	44	15	3

実践する段階（資料1）では、これまで、関わってきた人達に何ができるかを考えさせた。児童は、これまで関わってきた人達にお礼がしたいことから、地域の高齢者を学芸会に招待し学習の成果を見てもらったり、盲学校に字で打ったお礼文を作った。特にお世話になったソフィアの交流では、高齢者に感謝の気持ちが伝わるような交流の計画を立てさせた。交流会では、児童の司会進行で、方言でのあいさつやこれまで調べたことを発表したり、ソーラン節の踊りや全員での合唱・合奏を披露した。児童の一生懸命な姿に感涙する高齢者もいた。交流後の、ソフィアの所長から「感動しました。私たちは、みなさんから元気をもらいました。寿命も延びたことと思います。ありがとうございました」とのお礼の言葉があった。児童の交流後の感想も「勇気を持っておじいさんやおばあさんに声をかけた」「また、交流したい」とあり、児童が勇気や自信につながる交流できた。

資料1 ソフィアとの交流会と児童の感想



ソフィアとの交流会



交流後の児童の感想

VII 研究の成果と今後の課題

1 成 果

- (1) 祖父母や地域の高齢者と関わりを持つことで、知恵や尊敬する気持ちを深めることができた。
- (2) グループで課題追究をしたので、役割を分担し協力して活動することができた。
- (3) 見通しを持った課題を作ることで、自ら課題を追究することができた。

2 課 題

- (1) 校区内・学級の人材の発掘と把握。
- (2) 各教科等の基礎・基本と総合的な学習の時間の関連づけ。
- (3) 児童の興味・関心を持たせた指導計画の工夫。

〈主な参考文献〉

児島邦宏・村川雅弘編 小学校ウエビングによる『総合的学習実践ガイド』
有園格・小島宏編著「総合的な学習」の理論と実際
平成13年度豊見城村立とよみ小学校研究紀要

教育出版2001年
ぎょうせい1999年